

(奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産 地域連絡会議資料)

# 世界自然遺産推進共同体の活動について

2026年1月29日

世界自然遺産推進共同体

代表 中山 洋彦  
(日本航空(株) 鹿児島支店長)



奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島  
世界自然遺産

## 世界自然遺産推進共同体（2019年8月発足）

- ◆環境保全、気運盛り上げに官民一体で取り組む必要性
- ◆先代から受け継いだ島の宝を次世代に
- ◆環境保全と地域振興策の両立の必要性

代 表：日本航空(株)鹿児島支店長

副代表：日本エアコミューター(株)取締役、(株)ドコモCS九州 鹿児島支店長

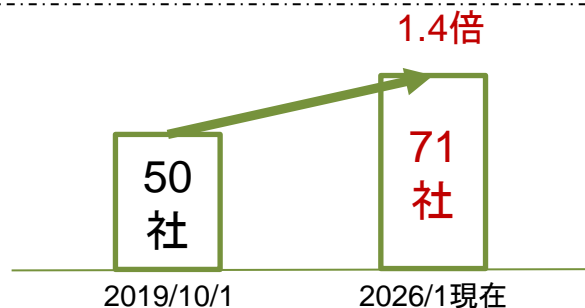
事務局：日本航空(株)奄美営業所、日本エアコミューター(株)地域連携部

(株)ドコモビジネスソリューションズ九州支社鹿児島支店

構成員：71社（奄美群島および鹿児島県内外の企業・団体）2026年1月現在

後 援：環境省、林野庁、鹿児島県、奄美群島12市町村

環境保全と地域振興の両立による持続可能な奄美群島作りに貢献したいという志の下に集う企業・団体の任意の集まり（会費や負担金なし）



# 共同体活動活性化のための工夫：活動ステージの明確化（体系図）

## 【最上層】共同体全体での活動：

環境保全と活用の両立により持続可能な奄美群島作りに貢献していくために、  
参加企業/団体の皆さまと一緒に考え取り組んでいく大きな活動

## 【二層目】企業/団体としての活動：

各社の特徴を活かし、環境保全への貢献とともに企業利益にも繋がる取り組み  
自然環境・企業・消費者とも満足する三方良しの形

## 【一層目】個人としての活動：

島を大事にしていくという個々人の思いの醸成。  
「自然観察/体験」「世界遺産シンポジウム参加」等

# 【共同体全体での活動】希少動物のアマミトゲネズミ繁殖のためのシイの実集め

- ◆日時/場所：2020年から毎年秋（11月）に実施 ～ 2025年は竜郷町奄美自然観察の森
- ◆共 催：奄美市立奄美博物館（奄美市教育委員会文化財課）、世界自然遺産推進共同体
- ◆収集量：年により異なる（過去最高は12kg）



アマミトゲネズミ



動物園にシイの実を贈呈



職場の仲間と、家族と自然を散策しながら保全活動を実践

# 【共同体全体での活動】アマミノクロウサギロードキル対策

## ①交通事故防止キャンペーンへの参加

【主催】奄美警察署

【実施時期】毎年秋に実施、共同体は2020年度から毎年参加

【実施内容】環境省奄美群島国立公園管理事務所の皆様と共同で、安全運転  
ロードキル防止を呼びかけ



## ②三太郎線周辺利用者の予約状況確認等の現地立会い

【主催】環境省、鹿児島県、奄美市、世界自然遺産推進共同体（協力）  
（いずれも奄美大島三太郎線周辺における夜間利用適正化連絡会議構成団体）

【実施期間】ゴールデンウィーク、お盆、9月連休、年末年始の数日間

【実施場所】

東仲間側出入口及び西仲間側出入口にて、日没後～21:30の間、立会い

# 【企業活動の例】 奄美空港での希少生物持ち出し防止対策


## 《空港関係者》

航空会社、保安検査会社、空港管理事務所、環境省と連携し持ち出し防止



◆希少種密猟逮捕事例×2件（奄美大島）

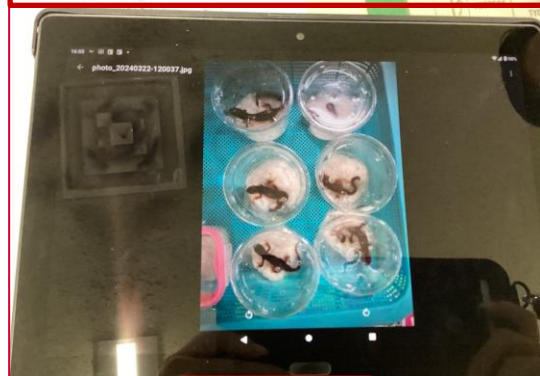
◆世界自然遺産区域に違法わな×複数回  
（奄美大島、徳之島）

- 
- (1) 密猟・密輸対策研修会を実施（2019年以降毎年）
  - (2) 希少生物（疑わしきもの）発見時の連絡網の整備
  - (3) 持ち出し違法周知ポスターを空港ロビー内に掲示
  - (4) 識別マニュアルや希少種判別用タブレットを、  
JAL奄美空港カウンタースタッフ用として配備
  - (5) 搭乗ゲート付近での野生動植物持ち出し確認

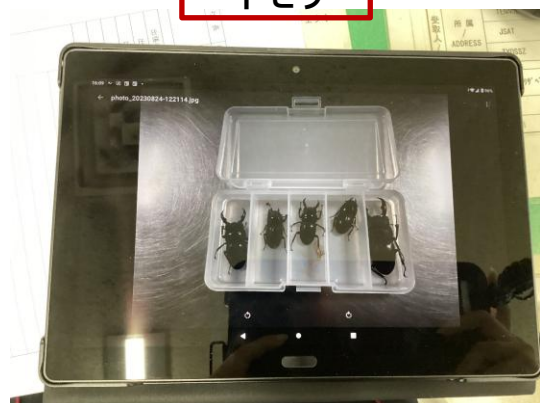
# 【企業活動の例】 奄美空港での希少生物持ち出し防止対策

調査の結果、絶滅危惧種ではなかったが、希少種に限らず、島の生き物が大量に持ち出されることによる島の生態系への影響が懸念 ⇒ 関係機関と対策を検討中

機内持込手荷物



イモリ



クワガタ

航空貨物受付時の開披検査で確認



大量のシリケンイモリ

# 2025/6/12 共同声明文書～島の生きものを持ち出さないでください！

おねがい

～奄美大島・徳之島の自然を守るため「島の生きもの」を  
島から **持ち出さないで** ください～

この2つの島の生態系は『独自の自然環境』と  
島で『命をつないできた多様な生きものたち』によって  
長い時間をかけてつくられてきました。  
『今を生きる生きものたち』がそれぞれの命をつなぎ、  
ここにしかない生態系がいつまでもあり続けられるよう  
島に出入りするすべての方をお願いします。

## 【以下のサポート施策を実施】

- ①機内アナウンス
- ②空港ロビーアナウンス
- ③JAL HPに「島の生きものを持ち出さないで」の呼びかけ
- ④鹿児島大学「奄美大島・徳之島の生態系 保護啓発ステッカー」制作
- ⑤マルエーフェリー内でのアナウンス（検討）

奄美大島と徳之島は、琉球列島の地史を反映した独自の生物の進化、種分化を背景に、アマミノクロウサギに象徴される固有種のほか、豊かな動植物を有する島です。

世界的にみて、生物多様性が突出して高い地域であり、固有種や希少種に代表される生物多様性の保全上重要な地域として、その顕著で普遍的な価値が認められ、2021年7月、世界自然遺産に登録されました。

その自然環境は、遺産登録地とその周辺地域が島全体にわたり連続的に形成され、また、固有種や希少種のみならず、あらゆる動植物が一体となり島の自然生態系を成立させています。

古い時代から深く島に根付き、生き続けてきたそれらの動植物は、奄美大島と徳之島をそれぞれ一つの家に例えると、かけがえのない「島の家族」といえます。

しかし、近年、これらの動植物の島外への持ち出しが確認されています。

動植物の持ち出しによって大切な「島の一員」が失われることは、島の生物多様性を脅かし、島の生態系の劣化にもつながりかねません。また、これらの島の動植物が他地域で外来種となる懸念も生じます。わたしたちは、そのような事態を避けるために、動植物の島外への持ち出しを自粛してほしいと考えています。

奄美大島と徳之島に生息・生育している動植物は、長い年月をかけて島の自然環境に適応し、命をつなぎ、現在、目の前に存在しています。多様な動植物はその存在を通じ、わたしたちに様々な恩恵を与えてくれます。

わたしたちは、それらの動植物が、これからも、それぞれの生息・生育地で子孫を残すことができ、その自然の姿が失われることがないよう、地域全体の総意をもとに、見守り続けていきます。

世界的にも類いまれな価値を有する奄美大島と徳之島の自然環境を人類共通の遺産として、よりよい状態で後世に引き継いでいくため、わたしたちの保全の取組へのご理解とご協力をお願いします。

奄美大島自然保護協議会

（奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町）

徳之島地区自然保護協議会

（徳之島町、天城町、伊仙町）

鹿児島県

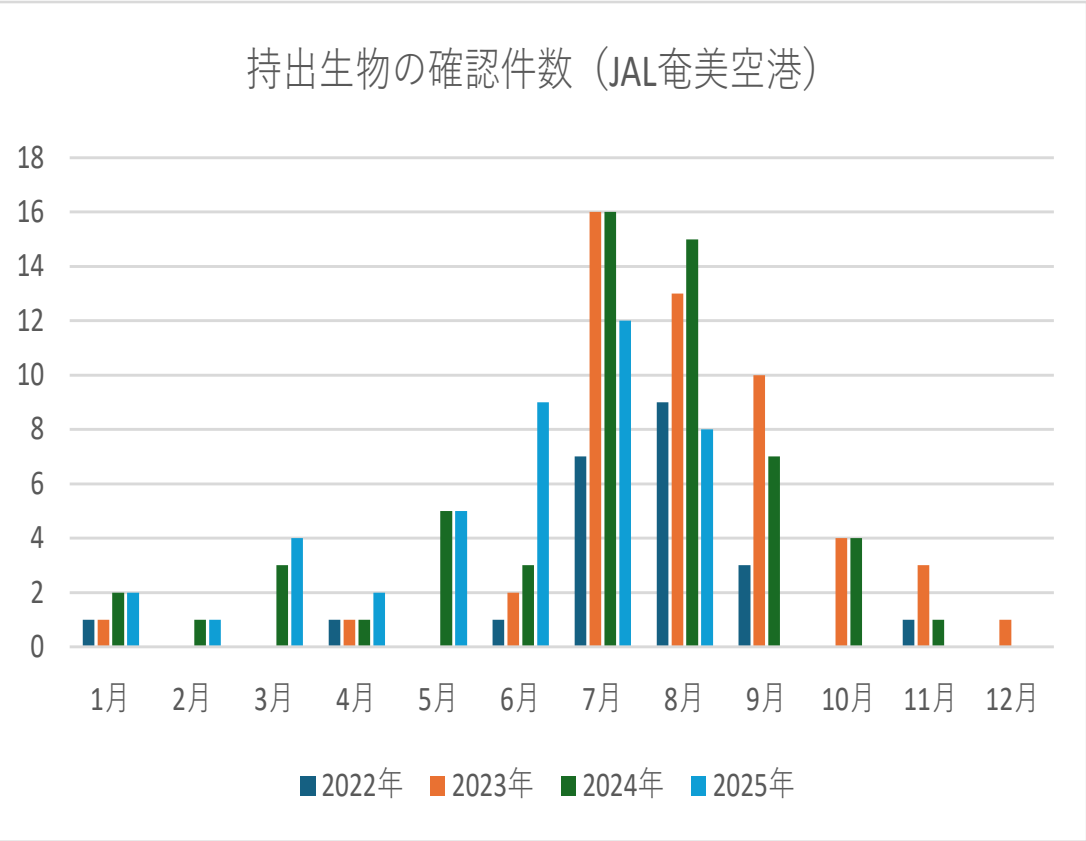
環境省奄美群島国立公園管理事務所

世界自然遺産推進共同体

# 共同声明文発信以降の奄美空港での持ち出し生き物の確認件数

■ 2025年1月～6月までは、前年および前前年を上回っている

■ 7月は前年比75%、8月は前年比53%



2025年	件数	前年	前年比
1月	2	2	100%
2月	1	1	100%
3月	4	3	133%
4月	2	1	200%
5月	5	5	100%
6月	9	3	300%
7月	12	16	75%
8月	8	15	53%

# 【企業活動の例】 宇検村×奄美大島開運酒造＝「アマミラビットロード」

宇検村（奄美大島）は、奄美大島開運酒造の奄美黒糖焼酎 Amami Rabbitの売上の一部寄付金を活用し、「ラビットロード」を設置～2025年3月

- ◆設置場所）アマミノクロウサギの出現が多い宇検村内の県道79号線の約3キロの区間
- ◆設置内容）区間の出入り口に、区間の始まりを知らせるマーク（写真：左）を塗装、ウサギの出現が特に多い3地点（写真：右）には、白黒の縞模様を施してドライバーの視認性を高め、ロードキル防止を図る。
- ◆奄美大島開運酒造の取り組み）
  - ・奄美黒糖焼酎「Amami Rabbit」を、2021年7月から奄美群島内限定で販売。
  - ・『自然と、奄美と、生きる』をコンセプトに、「奄美の恵みを、奄美に還す」想いで、この焼酎の売上の一部（1本につき100円）を奄美大島の公的機関を通じてアマミノクロウサギ保護のために寄付。
  - ・同社の工場が宇検村内にあることから、今回の寄付に至る。



## アマミノクロウサギなどのロードキル対策にセンサーを導入 (徳之島で実証実験へ)

### 【実証実験の概要】

同社のノウハウを活かして開発した『ミリ波式レーダー』装置を徳之島町のロードキル多発地に設置。

車の速度によって、『赤』・『黄』・『緑』の回転灯を点灯。  
運転手に注意喚起を促がす。



### 【26年3月以降】

『LiDAR（ライダー）』と呼ばれる赤外線センサー装置を設置予定。対物の形や道路周辺環境を感知することができる。

これで夜間においてもアマミノクロウサギを感知し、ミリ波式レーダーと連動してドライバーへ注意を促すことができる。



# 【団体活動の例】：『徳之島虹の会（NPO）』のあゆみ

世界自然遺産登録  
1周年, 2周年記念イベント

「知る,伝える」ための活動が最優先

世界自然遺産シンポジウム  
in 徳之島

徳之島の自然図鑑刊行  
「いのちつながる徳之島」

エコツアー

生物多様性写真展  
@徳之島  
@東京

清掃大作戦  
(海岸・林道・川)

## 10年目の課題

- ・住民が自然への関心が低い
  - ・自然を学ぶ施設、指導者がない
- 自然を壊してきたのは全て人間活動が原因

次世代を育て、未来へ伝える  
～継承・後継者育成～



**2011年4月 設立**

島の子どもたちの健やかな成長と、島の豊かな自然をいつまでも残したいという想い

## 「公益財団法人社会貢献支援財団」 社会貢献賞 受賞！！

### 「徳之島虹の会」が社会貢献表彰 安倍昭恵財団会長、活動を視察 糸木名小児童と当部林道散策

2025年11月15日 社会・経済

✕ ポスト



当部林道を散策しながら糸木名小の児童と交流を深める安倍昭恵さん（右）＝14日、天城町当部

伊仙町に拠点を置くNPO法人徳之島虹の会（政武文理事長）が、公益財団法人社会貢献支援財団（安倍昭恵会長）の第64回社会貢献者表彰を受けることが決まった。県内の受賞は同会だけ。12月に東京で行われる表彰式を前に安倍会長が14日、徳之島を訪問。同会の案内で、伊仙町の糸木名小学校の児童と一緒に天城町の当部林道を散策し、会の活動を視察した。

社会貢献者表彰は、各分野で顕著な功績を残しながらも社会的に報われる機会の少ない個人や団体が対象。

保全と活用の両立による持続可能な島



宝・魅力（自然・文化）の適切な活用



守る・磨く



ムンヌ シハテヤ ネン  
(物事の知り果てることは無い)

島のこと、  
島の宝のことに  
関心を持つ、知る

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」  
**世界自然遺産登録5周年**  
さらなる飛躍を！

ありがっさまりよーた！（奄美大島）

おぼらだれん！（徳之島）

ありがとうございました！

